



8ヶ月を過ぎた赤ちゃんの発達と発育についてのメッセージです。

1. 発達の標準：個人差はありますから一応の標準です。

- 6か月：支え座りが出来る（手を前についてのお座り）
- 7か月：手を自由に動かしながらお座りが出来る
- 8か月：腹這いの移動が出来る（グルグル回ったり後ろに進む）
- 9か月：腹這いで前に行く：すり這い、高這い
- 10か月：つかまり立ちが出来る
- 12か月：伝い歩きが出来る

2. 喃語：勝手に喃語でむにゃむにゃと独り言を言います。

3. 離乳食：9ヶ月頃から3回食が目標です。

でもあまり食べなくても焦らずに、1歳半位までに3回食が目標でも構いません。

☆母乳はいつまでいいの？

：母乳を続けているお母さんは**赤ちゃんがお誕生をむかえても**母乳を止める必要はありません。そのまま続けて下さい。その理由は

- 1) 医学的に母乳を止めなければならない時期はありません。「もう一歳でしょう」と言う人（医療者も）に「何故一歳で止めるのですか？」と聞くと、「だって一歳でしょう」という訳の分からない答えしか返ってきません。でも母乳を止めたお母さんの**90%以上は周りの言葉にまけて止めています。赤ちゃんはもっと飲みたいと思っています。赤ちゃんの気持ちを尊重しましょう。**
- 2) 母乳はむし歯の原因にはなりません。これは既に**多くの研究で**証明されています。もしむし歯になったらなおしてもらいましょう。
- 3) 夜、おっぱいにすがる回数が増えてきます。月齢が進むにつれて赤ちゃんの脳は発達し、お母さんへの親密度も増してきます。夜、寝ぼけておっぱいを吸うのはお母さんがそこにいるという安心の心のつながりです。「夜間授乳は止める」という指導は、この親子の絆を切りなさいということに等しいですね
- 4) 母乳は長く続ければ続けるほど母子ともに**メリット**があります
 - ① お母さんの乳がんや卵巣がん、大腿骨の骨折などが少なくなります。
 - ② 赤ちゃんが免疫的に長く守られることは勿論、将来**成人になってからの**糖尿病や心筋梗塞、肥満などの生活習慣病が少なくなり、より健康な生活を送ることが出来ます。
 - ③ 赤ちゃんが熱を出しても母乳は飲んでくれます。点滴の無い時代も母乳を続けることで人類は生き延びてきたのだとしみじみ思います。

以上から、母乳を途中で止める理由はどこにもありません。

どうぞお母さんはお子さんにとことん付き合っていてあげて下さい。

さかいたけお赤ちゃんこどもクリニック

